一．傍線部「る」の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．受身・尊敬・自発・可能の助動詞「る」の終止形　イ．完了・存続の助動詞「り」の連体形　ウ．動詞の連体形活用語尾の一部〉
1　あはれ悲しと思ひなげかる。　（更級日記）　［　　］
2　夜半過ぐるまで人の門たたき、　（徒然草）　［　　］

二．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．完了（強意）の助動詞「ぬ」の終止形　イ．打消の助動詞「ず」の連体形　ウ．ナ変動詞の終止形活用語尾〉
1　卯の花の咲ける垣根に宿りせじ寝ぬに明けぬとおどろかれけり　（拾遺集）　［　　］
2　駿河（するが）なる宇津（うつ）の山べのうつつにも夢にも人に逢はぬなりけり　（伊勢物語）　［　　］

三．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～エから選べ。
〈ア．打消の助動詞「ず」の已然形　イ．完了の助動詞「ぬ」の命令形　ウ．願望の終助詞（奈良時代）　エ．動詞の活用語尾〉
1　偽（いつはり）せんとは思はねど、乏（とも）しくかなはぬ人のみあれば、　（徒然草）　［　　］
2　憎し、とく死ねかしと思ふ。　（落窪物語）　［　　］

四．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。
〈ア．現在推量の助動詞「らむ」　イ．完了の助動詞「り」の未然形＋推量（婉曲）の助動詞「む」　ウ．動詞の未然形活用語尾＋推量（意志）の助動詞「む」　エ．打消の助動詞「ず」の未然形の一部＋推量の助動詞「む」　オ．形容詞の未然形活用語尾の一部＋推量（婉曲）の助動詞「む」〉
1　女は髪のめでたからむこそ人の目立つべかめれ。　（徒然草）　［　　］
2　いかにおぼつかなく思ひつらむ。　（大和物語）　［　　］

五．次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～エから選べ。
〈ア．四段動詞「なる」の連用形　イ．断定の助動詞「なり」　ウ．伝聞・推定の助動詞「なり」　エ．形容動詞の活用語尾〉
1　子安の貝をふと握り持たれば嬉しくおぼゆるなり。　（竹取物語）　［　　］
2　この吹く風はよき方（かた）の風なり。　（竹取物語）　［　　］

六．次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。
〈ア．助詞　イ．副詞の一部　ウ．完了の助動詞「ぬ」の連用形　エ．断定の助動詞「なり」の連用形　オ．形容動詞の連用形活用語尾〉
1　年のうちに春は来にけり一年を去年とや言はむ今年とや言はむ　（古今集）　［　　］

2　変化の者にてはべりけむ身。　（竹取物語）　〔　　〕

七．次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．断定の助動詞　イ．完了・存続の助動詞　ウ．形容動詞の活用語尾〉
1　三井寺は、近江の義大領が私の寺たりしを、　（平家物語）　〔　　〕
2　北には青山峨々として、松吹く風索々（さく）たり。　（平家物語）　〔　　〕

八．次の傍線部の用法として適当なものを、次のア～エから選べ。
〈ア．強意の係助詞「なむ」　イ．願望の終助詞「なむ」　ウ．強意の助動詞「ぬ」の未然形＋推量（意志）の助動詞「む」　エ．ナ変動詞の未然形活用語尾＋推量（意志）の助動詞「む」〉
1　なんぢと一所で死なむと思ふためなり。　（平家物語）　〔　　〕
2　忍びては参り給ひなむや。　（源氏物語）　〔　　〕

九．次の傍線部の用法として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．希望の終助詞「ばや」　イ．接続助詞「ば」（仮定条件）＋係助詞「や」　ウ．接続助詞「ば」（確定条件）＋係助詞「や」〉
1　草の葉にかかれる露の身なればや心動くに涙おつらむ　（大和物語）　〔　　〕
2　かかる所に思ふやうならむ人を据ゑて住まばや。　（源氏物語）　〔　　〕

十．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・イから選べ。
〈ア．格助詞　イ．接続助詞〉
1　又、麓に一つの柴の庵あり。すなはちこの山守が居る所なり。　（方丈記）　〔　　〕
2　「すずめの子を犬君（いぬき）が逃がしつる。」　（源氏物語）　〔　　〕

十一．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～カから選べ。
〈ア．過去の助動詞「けり」の已然形　イ．形容詞の已然形活用語尾　ウ．推量の助動詞「べし」の已然形の一部　エ．打消推量の助動詞「まじ」の已然形の一部　オ．希望の助動詞「まほし」の已然形の一部　カ．四段動詞の已然形活用語尾＋完了の助動詞「り」の已然形（命令形）〉
1　秋の野をにほはす萩は咲けれども見るしるしなし旅にしあれば　（万葉集）　〔　　〕
2　めでたしと見る人の、心劣りせらるる本性見えんこそ口惜しかるべけれ　（徒然草）　〔　　〕

十二．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～エから選べ。
〈ア．サ変動詞「す」の連用形　イ．過去の助動詞「き」の連体形　ウ．強意の副助詞「し」　エ．強意の終助詞「かし」の一部〉
1　用意せねば、折れなどして笑ふもまたをかし。　（枕草子）　［　　］
2　春の海に秋の木の葉しも散れるやうにぞありける。　（土佐日記）　［　　］

十三．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。
〈ア．副詞「しか」　イ．過去の助動詞「き」の已然形　ウ．過去の助動詞「き」の連体形＋疑問の係助詞「か」　エ．強意の副助詞「し」＋疑問の係助詞「か」　オ．希望の終助詞「てしか」の一部〉
1　今も見てしか妹が姿を　（万葉集）　［　　］
2　大門・金堂など近くまでありしかど、正和のころ南門は焼けぬ。　（徒然草）　［　　］

十四．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．格助詞「して」　イ．接続助詞「して」　ウ．サ変動詞の連用形（活用語尾）＋接続助詞「て」〉
1　「心して降りよ。」　（徒然草）　［　　］
2　そこなりける岩におよびの血して書きつけたりける。　（伊勢物語）　［　　］

十五．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．サ変動詞「す」の未然形　イ．過去の助動詞「き」の未然形　ウ．使役（尊敬）の助動詞「す」の連用形〉
1　今宵、「かかること。」と、声高にものも言はせず。　（土佐日記）　［　　］
2　などかうは泣かせ給ふぞ。　（宇治拾遺物語）　［　　］

十六．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・イから選べ。
〈ア．完了（強意）の助動詞「つ」　イ．接続助詞「て」〉
1　それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。　（竹取物語）　［　　］
2　野山にまじりて竹を取りつつ、　（竹取物語）　［　　］

十七．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。
〈ア．格助詞「と」　イ．接続助詞「と」　ウ．断定の助動詞「たり」の連用形　エ．形容動詞の連用形活用語尾　オ．副詞の一部〉
1　その間に佐々木はつと馳せ抜いて、川へざつとぞうち入れたる。　（平家物語）　［　　］
2　下として上に逆ふること、あに人臣の礼たらんや。　（平家物語）　［　　］

十八．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～キから選べ。
〈ア．禁止の副詞「な」　イ．禁止の終助詞「な」　ウ．詠嘆の終助詞「な」　エ．奈良時代の意志の終助詞「な」　オ．完了（強意）の助動詞「ぬ」の未然形　カ．打消の助動詞「ず」の未然形　キ．希望の終助詞「てしがな」の一部〉

1　今はこの渚に身をや捨てはべりなまし。　（源氏物語）　〔　　〕

2　竜の首の玉取り得ずは、帰り来な。　（竹取物語）　〔　　〕

十九．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～キから選べ。
〈ア．格助詞「に」　イ．接続助詞「に」　ウ．完了の助動詞「ぬ」の連用形　エ．断定の助動詞「なり」の連用形　オ．形容動詞の連用形活用語尾　カ．ナ変動詞の連用形活用語尾　キ．副詞の一部〉

1　この人を具していにけり。　（徒然草）　〔　　〕

2　さし寄りて、据ゑなほして往にければ、上人の感涙いたづらになりにけり。　（徒然草）　〔　　〕

二十．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．格助詞「にて」　イ．断定の助動詞「なり」の連用形＋接続助詞「て」　ウ．形容動詞の連用形活用語尾＋接続助詞「て」〉

1　竹の中におはするにて知りぬ。　（竹取物語）　〔　　〕

2　世の中うらめしげにて、外にわたるとて、　（更級日記）　〔　　〕

二十一．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．接続助詞「ば」（仮定条件）　イ．接続助詞「ば」（確定条件）　ウ．係助詞「ば」〉

1　ただ今行方なく飛びうせなば、いかが思ふべき。　（更級日記）　〔　　〕

2　人死を憎まば、生を愛すべし。　（徒然草）　〔　　〕

二十二．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。
〈ア．推量の助動詞「らむ」　イ．動詞の未然形活用語尾＋推量（意志）の助動詞「む」　ウ．形容詞の未然形活用語尾の一部＋推量（婉曲）の助動詞「む」　エ．完了（存続）の助動詞「り」の未然形＋推量（婉曲）の助動詞「む」　オ．打消の助動詞「ず」の未然形の一部＋推量（婉曲）の助動詞「む」〉

1　心あてに折らばや折らむ　（古今集）　〔　　〕

2　このわたりの心知れらむ者を召して問へ。　（源氏物語）　〔　　〕

二十三．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。
〈ア．格助詞「を」　イ．接続助詞「を」　ウ．間投助詞「を」〉

1　月のおもしろう出でたるを見て、　（竹取物語）　〔　　〕

2　極楽寺、高良などを拝みて、　（徒然草）　〔　　〕

１十.　２１九.　２１八.　２１七.　２１六.　２１五.　２１四.　２１三.　２１二.　２１一.

ア　アウ　ウエ　ウア　エウ　イイ　アオ　エア　イア　ウア

2 ア

十一. 1 カ 2 ウ

十二. 1 ア 2 ウ

十三. 1 オ 2 イ

十四. 1 ウ 2 ア

十五. 1 ウ 2 ウ

十六. 1 イ 2 イ

十七. 1 オ 2 ウ

十八. 1 オ 2 イ

十九. 1 カ 2 カ

二十.
1 ア
2 ウ

二十一.
1 ア
2 ア

二十二.
1 イ
2 エ

二十三.
1 ア
2 ア